

配偶者を亡くして一年日記

(1)

団士郎

妻が亡くなって一年が過ぎた。本当にあっという間だった。だからといって特別早かったと言えるかどうかはわからない。歳をとると月日の経つのが早いとは一般的によく言われる。それとは違って格別に早かったのかどうかなんて区別はつかない。この一年も365日あったのは事実だから、その上での主観だ。

だいたい言い表していると思える一般的な言葉や言い回しを使ってしまうと、体験の個性はどこかにいってしまって、「ご愁傷様」、「お力落としのないように・・・」なんて返答が帰ってくる事態に歩みをすすめることになる。

そんなことばかり言って暮らしていると、一般論の塊になってしまう。そもそも体験は個別だし、それを他人が同じように分かたりしないのは当然だ。だが、そんなことを口にして、自意識過剰のように思われたりするの嫌だから、時には世間と談合するように、一般的な表現に委ねたりもする。でも、そんなことをしていても、なにも面白くも嬉しくもない。

他の人に関心があろうがなかろうが、私にとって何もののにも替えがたい唯一無二の体験であった妻の死は、個性に厳密にこだわっていたい。そう思って暮らしていたら、一般論に言われている、「配偶者の喪失は最大のストレスだ」というものに、ひとつも該当するところなく一年を迎えることになった。

この先、二年目にどんなことになるのかなんて分からないが、とにかく今日まで過ごしてきた1年365日のツイッターを整理しながら振り返ってみることにする。



2020年8月からの一年ツイート日記

8/15

8月12日23時38分に、妻が息を引き取りました。今日、お葬式をしました。花いっぱい囲まれて旅立ちました。七十歳は若いなとは思いますが、いつか、どちらかからが理です。妻の願っていた、カジュアルに家族が勢揃いしたお葬式もできました。寂しくなりますが、元気にやっていこうと思います。ご心配下さった方々、ありがとうございました。

(赤字は現在、2021/8/15の記述) 告別式を終えた夜、数日間とんでいたツイッターに、このように書いた。

誰もが迎えることだから、死にそれほどドラマチックな事を付け足そうとは思わない。自分の死に置き換えてみても、個人差のある人生(時間)が一区切りされるだけだと思っている。

ただ、その場に向き合うことになる残された者には、膨大な手順、手続きがのしかかってくる。そしてそれをミスると、悔いが残ったり、理不尽な面倒に遭遇することもないではない。

私はここ十年余の間に、父と母を見送った。だから、多少様子は分かっていたといえるだろう。それでもやはり、人が亡くなった後の対応は、大変だと言わざるを得ない。最愛の人を失って…なんてセンチメンタルなものではない。ひたすらその後の連絡、段取り、相談と選択、そして決定の繰り返しだ。

だから、医療の終盤は病院にお任せ、亡くなったら業者さんにお任せ、葬式もお寺さんをお願い、なんて人も少なくないだろう。そして全てが終わったところで、ヤレヤレやっと一息なんてことがなくもない。

「でも、妻を見送るのが、そんなことで良いのか？大切な人との別れを、そういうパッケージ感覚で行なって不満はないのか？」と当然のように思った。それは以前、両親の葬儀を、彼らが会員になっていた「セレマ」という業者に自動的に連絡して、不都合なく済ませていたからだった。

＊

二度目の入院中、ホスピスへの転院を主治医から打診され、結局、「うちで診させていただけでしょうか…」と言われても、まだ亡くなるとは思っていなかった。そして最後は急くように妻の人生が終わった。すると病室は、突然様変わりして、病院スタッフによる片付けが始まった。私達はその後どうするかを、病院の指示ではなく、自分たちの選択で行わなければならなかった。

たくさんの人に来て貰うつもりもなかったから、最近流行の「家族葬」専門のところに連絡してもよかった。だが、両親の時のことを思い出して、葬儀会場が自宅に近く、馴染みもあるセレマを選んだ。

病院から電話すると、火葬場の予約が取れる日時で、葬儀の日程が決まると言われ、連絡を待った。混雑しているらしく、土曜の午後が最速だと言われ、8月15日(土)午前の告別式が決まった。今は12日(水)から13日(木)にかけての深夜である。「ご遺体はどう致しますしょう？」と問われても、「はあ？」である。

葬儀場に運んでお通夜14日、告別式15日も可能だし、いったんご自宅に戻られて、お通夜の日に斎場に行くことも可能だと言われた。

今からと13日の夜を、斎場で一人過ごさせようとは思わなかったのも、自宅にお願いした。「暑い時期のことなので、二日ありますし、ドライアイスは通常の二倍で」と言われても、それがどうなのか分からない。寝台車に乗せて深夜、自宅に戻った。

そしてお寺のことを考えなければならない。両親の時、枕経というのをあげて貰った記憶があった。当然、團家先祖代々の墓のある青龍寺(曹洞宗)の坊さんに、業者から連絡して貰うのが通常だ。両親の時はそうした。

しかし妻は、その事を早い時期から話題にしていた。私よりも自分が先に死ぬ希望を以前から持っていて、その時には散骨して欲しいといていた。お墓でずっと待っているのは嫌だと言うのだ。

両親の時と同じように葬儀とその後を済ませていけば、納骨は必然になるだろう。妻は青龍寺との付き合いにも消極的だった。

どうしよう？と考えたとき、思い出したのが古くからの友人、竹中君である。現在、姫路在住で、自宅の寺を継いで僧職にある。多分宗派は異なるが相談してみることにした。

今振り返ると8月13日、お盆の真っ最中である。檀家さんへの対応や寺の行事など、多忙を極めたに違いない。しかし電話口で彼は、「僕が行きましようか？」と言ってくれた。「えっ、宗派が違うやろ。いいの？」と思った。でも、彼が来てくれたら、本当に気持ちが楽になる。慣れない坊さんの対応をする喪主から解放される。有り難い。

そして14日の通夜から告別式、七日参りから四十九日、百ヶ日まで。全て彼が執り行ってくれた。私はその中で妻を偲んでいればよかった。

通夜、告別式の段取りも自分の選択を通した。8月15日(猛暑)に喪服はいらないと、皆さん夏の平服でと伝え、私自身もアロハシャツで臨んだ。それは唯一、妻とペアリングで持っていたアロハだった。妻のは棺に入れた。

会葬者は身内だけにしたが、「親族だけで済ませました」と後で知らせる最近の風潮ではなく、おつきあいのあった方々には伝えた。そしてお花を戴けないかとお願いした。ただ、それに大きな名札をつけるのは止めたいともお願いした。

誰も自分の名前を見せびらかしたくてお花を下さったりしていない。そんなモノは会社や地方議員などの悪習慣だと思う。私が良いと思うように変えた。



お花はたくさん戴いたが、会場に文字は妻の「法名」だけ。

*

初盆を迎えた2021年8月、お骨は今も我が家にある。ずっと私が持っていて、私が死んだ時、夫婦のそれをどうするかは、子ども達が相談して決めてくれることになっている。



8/16

完成した本が届く。年一度、この表紙を担当し始めて6冊目かな。あっという間に時は経つ。



8/17

東日本大震災、被災家族の応援を祈念して毎年一万冊制作してきた配布文庫が満願の十号を迎えた。今号中の一編は私の母が亡くなった時の話だ。「目標達成のお祝いに、今年の製作費は私が出すわ!」と妻が言ってくれたのが今春。奥付に協力/団典子と名前を入れた。発行日は8月15日。まさかそれが妻の葬儀の日になるとは。



8/18



この企画が動き始めた時、まさかこんな状況で迎える日になるとは思わなかった。でも、ライブと謳っているのだから、こういうこともあるのだろう。

妻を亡くした十日後に、どんなことを語るのかを聴いて頂しくない。今日は zoom のテストと打ち合わせを仕事場 D・A・N で。

8/20

朝は相談室の勤務日。妻が亡くなって一週間、他人の相談にのってる場合か！と突っ込まれそうだが、そうでもない。午後は週末のトークライブの演題(二本)の話の流れをプラン。

人が亡くなった後、膨大な手続き作業が待っていることを知る。一つずつ片付けていくしかないが、もらったリストに目眩。



8/21

いいタイトルだと思う。読み始めたばかりだが、巻頭、松元ヒロさんのインタビューがいい。登場人物の顔ぶれを見るとなかなかの向かい風、真っ向勝負集団だ。勇気を持って、次の世代のために出来ることをしておきたい。



8/22

100名近い有料参加で無事トークライブが終了。Zoom でこんなことができるのだと感心する。全国各地で20年以上継続開催してきたワークショップとは異なった企画として可能性を感じる。別物だと考えれば、受信者にもメリットの多い手法だ。二回目をやるならプログラムを新たに考えたい。

終了後、大津・逢坂山大谷の「かねよ」に次男(いどむ)も合流。父子三人で鰻を食べながらワイワイ。元気に妻・典子、母・典子を語る。明日は二七日(ふたなのか)。

この店、我が家は六十年以上利用し続けている。馴染みの場所が地元にあるのはいい。



8/23

竹中君には二七日のお勤めをしてもらって、その後は息子達と四人でご飯を食べにいった。彼とは長い長い付き合いだが、それについての息子の質問が面白いというか、もっともというか。



「19歳(彼)と28歳(私)がシルクロード・パックスアーでたまたま出会って、なぜ四十五年もの付き合いになるの？」

そう問われても私はわからない。しかし彼には確信があったらしい。

8/24

こんな土砂降りの中、出かけることもないかと思った。でも、わざわざなら嫌じゃない。途中ヒサシのある軒先で雨宿り。靴もズボンもビチャビチャだけど、暑さはまだから、気にしないで今から王将の餃子定食ダブルを。



8/25

ストレッチに行った。もう同じ人に担当して貰って三年くらいになる。

対人援助学マガジン42号の締切日、原稿が続々届く。新連載がまた三名ある。嬉しいことだ。

iPhone のクラウドトラブルを抱えている。四条のアップル shop に行くと、これは電話サービスの対象事項だと言われ、繋いでくれたが未解決。イラッ。

8/26



「赤い闇-スターリンの冷たい大地で-」を観た。遠いところで、総合的判断というのをされてしまうウクライナの人々。飢餓による数百万人の死が、見方

によるなどと報道される。ホロドモールという言葉を知らなかった、飢餓による殺害。物語はジャーナリストが消えてしまう、今の日本のようだ。

8/27

朝の相談室は、新規二件。それぞれに家族、親子の難しい課題だ。終えて外に出ると、おお、そうだった。お向かいの昨日の夕刊で見た景色。馴染みの三月書房が店を閉じて久しかったが、シャッターの柄の変化に気付いていなかった。書店のダマシ絵だ。街が変化していくのは必然だな。



8/28

zoom 版東日本・家族応援プロジェクト漫画トーク in むつ市を無事終えた。操作方法で一部うろたえることもあったが、準備したように話せて一安心。十年続けてきた最終年が、現地入りできない事態になるとは想像できなかった。結果、最終年度事業は来年仕切り直しをすることになった。

8/29



三七日。お花が萎れてきたなあと思ったら、新たに届けてくださる方があって交換。ありがたいことに途絶えることがない。今日は昔からの我が家の仏

壇をステージに、曹洞宗と浄土真宗のコラボ。毎週日曜日の七日参りがもたらしてくれる私の中の落ち着きを実感している。

8/31

ボケてきているらしい。zoom 会議に関して、しばしば勘違いをしてしまう。土曜はラストのひと枠を忘れていたし、今日は三時開始だと思い込んでいた。実際は 13 時開始。移動中に気づいても、対策がない。申し訳ないことだが、注意しているのにこれだからなあ。

夕方から対人援助学マガジン42号の編集会議。PDF 原稿の締め切りは本日中だから、ちょっと早すぎてまだ届いていない方もあるが、それでも実に順調な集まり具合である。夜半には九割以上が届く。

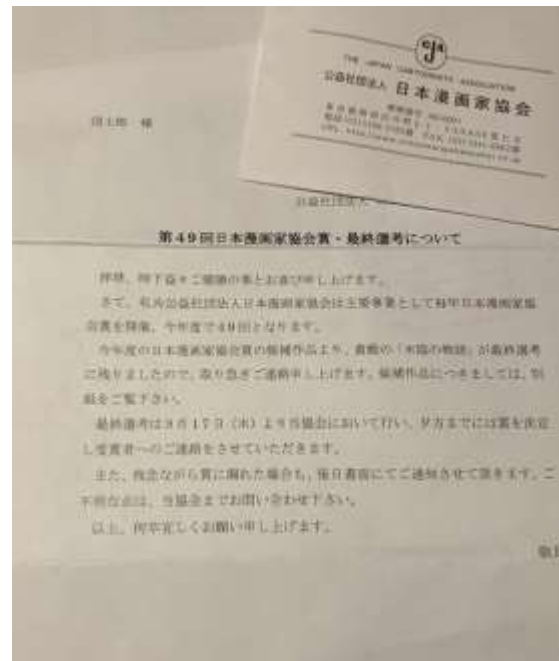
新連載も三人。パリからの寄稿や中国人留学生が日本のアダルトグッズ業界に就職したルポ。面白そうでしょう？



9/1

数日前、封書が届いた。10年続けた東日本大震災家族応援プロジェクトの配布文庫版「木陰の物語」発行を日本漫画家協会賞に応募しておいた件だ。

コロナの影響で選考会が大幅に遅れていた、その途中経過が中身だった。最終選考に残ったリストを見ると強敵が多い。結果は9月17日発表。



9/3

朝の相談室は二件。昨夜、泊まり込みで木陰の物語新作 247 話を仕上げた。この後、対人援助学マガジンの入稿チェック。



妻が亡くなった後の手続き事が滞っているものがあるみたいで、その対応を速やかにしなければならない。明日にでもと思っているが、気ぜわしい中、台風のニュース。

発売された当時、書店で見知っていたアラーキの写真集。しかし手が伸びなかった。七日参りに来てくれている竹中君が勧めて貸してくれた。一読、胸一杯、即、ネット古書で探して購入。今の気持ちに染み入ってくる。

10年前、妻の還暦祝いに写真集を作って贈った。その1頁目が遺影になった。四十九日には六十歳代の写真集を作ってやるかな。



9/5

明日の**四七日**のために長男と次男が来訪。食事をしたりお茶を飲んだりしながら、妻、母について、他愛のない昔話をダラダラ。こういうのが四十九日までの過ごし方なのだなあと実感。まだひと月にもならないのか。でも、気づくことはいろいろあるが、その多くがよく耳にするのとは異なる。

9/6

みんなが帰った深夜。この映画を観た。最近、どんな映画が見たいのか分からなくなることがある。途中でやめてしまったり、こんな展開なんだろう、と思

ってしまうと興味が続かなくなる。

これは大人になれないおっさんの、どうでもいい話なのだが、自分もそういうところがあるなあと思って苦笑いで観た。



9/7

大きな台風10号が通っていった。近くはそれほどの影響もなく済んだが、大きな被害のところは後片付けにうんざりだろう。出かけるのを控えて1日家にいたら体が軋む。やはり京都の職場との往復は健康もモチベーションも維持させてくれる仕組みだ。お供えの花から落ちていたのをパチリ。



9/8

街を歩いているからこそ、出くわすものがある。それほど強く心惹かれるものでもないのに、わざわざは行かないかもしれない。でもそんな好奇心がちょっと満たされると、何か自分の裾野が豊かになっている感じがする。それくらいのギャラリーの催しを見て、それくらいのカレーを食べた満足感。



9/8

旅の本が好きだ。少々くだらなくても読む。一つ目は添乗員の女性のもの。わがままでバカなお客に、読んでいてイライラした。二つ目はアフロの朝日新聞記者だった女性。特に理由もなくリヨンに二週間滞在生活してみた話。

こういう旅をしてみたいなあと思うが、コロナだ。



9/9

重陽の節句。朝から自宅でマガジン42号の最終仕上げ。編集員二名も、それぞれの時間の許すところで作業中だ。今回も新連載が三本あって、ますます多様性に溢れた、対人援助職者必読のものになっていると思う。328ページ無料で間もなく完成、九月十五日には web にアップされる予定。どうぞ、お楽しみに。



9/10

朝は定例の相談室勤務。家族を焦点に考えたらいいだろうと思う人がやってくるようになっている。後半は次年度の勤務についてのヒアリング。20年以上続けてきたし、このままでいいなら、やめる理由もない。少しでも誰かの役にたてていると思える

のは元気になれる。いい仕事だな。

(こう書いた翌年、2021 年度末で、市の財政事情悪化で、相談室が外部委託化され、閉室することになった)

深夜、もう寝ようと洗面所に。Gum の残りが少ない気がして、蓋をしたままブンブン振り回したところ、気付いたらあちこちに飛び散っていた。

だが、大失敗の報告をする相手もおらず、「バカじゃないの」と言ってももらえない。一人黙々と、歯磨きをしないでドア磨きをした。つまらんなあ。



9/11

妻の本棚を整理していたらこの本があった。長らく目にしていなかったものだ。浜田寿美男さんに依頼された奈良女子大での講演のテープ起こしだが、四十ページほどもある。話していることは今とそう変わらないが、我が子たちの15年ほど前がこの発言の背景である。そこに意味があると思う。



9/12

一人暮らしになっても仕事や雑用、手続きがあって、ガランとした感じはない。そんな中で、もともと嫌いではなかった自炊もたまに。去年から血压対策

のバナナスムージーは継続中だ。(これは見事に130前後まで下がって継続中)。今日の昼は納豆、冷奴にフルーツサラダ、ハムのオムレツと炊き立てのご飯に味噌汁。普通に美味い。



9/13

五七日。定着した七日参り。もう暫くするとお参りに来てくれる。次の次で四十九日か。週一度、こんな風に時が過ぎるのを実感しながら日常を過ごしている。

今読んでいるのはこれ。新聞の書評で久しぶりに名前を見た写真家。たくさん文章も書いている人だったんだ。あの時代の人の存在感が分厚い。



9/15

拡散希望です。閲覧、ダウンロード フリーの対人援助学マガジン42号。アップされました。私が編集長です。今回も五十人以上の執筆者による300ページ越えの一冊です。目次を参考に、関心のあると

ころからどうぞ。執筆者短針で人柄も見えたりします。



今日は大阪で三つの事をしてきた。加えて、久々に訪れた梅田、紀伊国屋書店で興味深い新刊2冊も手に入れた。360ページの翻訳ものと、450ページのものだ。後者は風呂で読み耽るつもりで脱衣所に老眼鏡と置いてある。もう一つは今、チラッと読み始めたが、志し高き男が、政治で殺された話だ。

9/16

ストレッチに行って散髪をして、アップリンクのある新風館をのぞいた。観たい映画を決めていたわけではない。するとロビーに院生とNさんがいた。聞くと、彼らも今遭遇したとのこと。院生は連れと観終えたところ、Nさんは今から二本立てで観る。私は決めきれず、結局食事に回った。映画欲下降気味。



9/17

今日は今年度の日本漫画家協会賞発表の日。先日最終選考に残ったと知らせがあり、審査結果は、受賞すれば夕刻ぐらいまでに電話があると言う。

直木賞の受賞通知や、話が大きいノーベル賞の受賞連絡等と自分の中ではイメージが重なる。そして結果は電話なし、残念。村上春樹の気分。ちがうかー

9/18

午後、家を出て仕事場への道中のカフェで仕事をするつもりだった。まあ一時間半くらいやれたらと思っていた。しかし始めたら、作りかけの書籍続編の校正と、自費出版のヒトコマ漫画集解説と後書きが共に予想外にはかどりと、気づいたら5時間を超えていた。こんな集中力が出てくれると嬉しくなる。



9/19

妻が亡くなって来週末が四十九日。昔から配偶者の死がストレスのトップだと言われる。もともとストレスの少ない人間なのだが、いま我が身がそこにあると、どうかなあと考えたりする。最近の週刊誌の特集も妙にタイムリーだったりして。でも実際は、書かれていることに私は今のところほぼ該当しないな。



9/20

六七日。家に残された沢山なものの整理を次男が積極的にしてくれている。そんな中から見つかったもの。50年近く前、公務員になりたての頃、大阪の

子供服メーカーの依頼で、シャツのイラストを描いた。わんぱくデニスのパクリみたいな絵だが、当時よく描いていたものだ。商品としてデパートにも並んだ。その頃から兼業公務員だったなあ。



9/21

ラストシーン近くで、なんと言っているか、分からない感情が湧き上がってきた。旅好きの私がいつも思っているように、旅することが人生なのだ。約束は果たすことより、守ろうとすることの方が尊い。こういう作品を観ると、やっぱり映画っていいなあと思う。



9/22

知らない本との遭遇。良い意味で思っていたものとは違った。だからどんどん読めてしまう。これは青年がある時期に自分のライフワーク、テーマと出

会う旅の物語だ。そのために彼がとった行動がとても興味深い。「荒野へ」という本があるが、その流れた。半沢直樹とは真逆の人生だな。



(これは良い本だ。絶対のオススメ)

9/23

何十年も手にしたことがなかった箒で玄関周りを掃いた。帰宅する度に気になっていた蜘蛛の巣や落ち葉を片付けた。なんたる心境の変化だと驚いている。

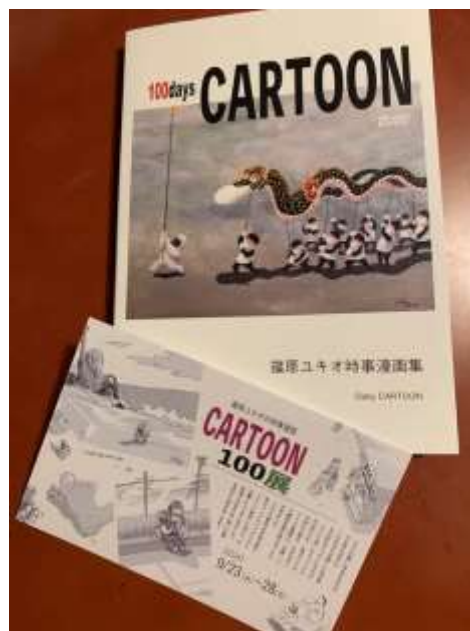
そこに宅配の本が届く。1986年刊行の全集を古書サイトで探して注文。関心のあることを拾い読み。早速、金嬉老の民衆弁護士としてを読む。



9/25

午後、久々の旧知が来訪。お互い70歳も超えているが、あれやこれやと話題は拡散。本、映画、何でもかんでも興味深く。

夕刻からは篠原ユキオマンガ展にいった、マンガ集団ぼむの月例会。でもコロナで半年ぶり。飯を食いながらアメリカの漫画事情の話を外村にする。滅多にないことだなあ。



9/27

七日毎に重ねてきて**四十九日**を無事終えた。なにか一区切りしたような、不思議な気持ちだ。後の食事会で皆さんにこれを渡した。典子の写真集二冊目。主に六十代と、一部彼女の子ども時代の写真も含めて一冊にした。作業をしながら、もう新たな写真が加わる事はないのだなあと思った。



9/28

昨日、一区切り感があつたので、月例の新作づくり。248話目だ。マンネリは遠の昔に過ぎていて、その次の段階で苦しむ。長く続けると、その時間の影響は如何ともし難い。読者にも慣れは生じるだろうが、

お客さんは自由だ。こちらがそこを越さねばならない。結構大変だとこの頃になって思う。



9/29

昨日から仕事場泊まり込みで第248話にかかり切っていた。今朝も、なにも食わずに朝7時からかかり切りだったが、やっと完成した。午後2時、さあ今から長いランチ休憩に入る。夜までずっと何をしようかなあ。



9/30

コロナの様子を窺いながらだが、いろんな企画がいよいよ再始動し始めた。

この半年の間に、妻の病気発覚から看病、そして死、葬儀から四十九日までがすっぽりと入った。あらかじめスケジュールされていたようで、不思議な気持ちだ。あっという間に2020年も年の瀬を迎えるのだろうか。



10/1

仕事場泊まりの朝。午前中、相談室で一件。午後からは完成した木陰の物語新作を送信。週末の講演の準備。新しい依頼の日程調整など。

一昨日から通して55分×十話。オランダ制作のミステリーが面白かったが、中身はこの頃の物語につきもののオンパレードだが。



10/2

風呂で娯楽小説を楽しむ。TVドラマは、あまりにも顔のアップが多過ぎて、エンタメ物語の肉が味わいづらかった。そこでたっぷり、半沢直樹の慣れ親しんだ面白さを。スルスル読む快感に池井戸潤作品はピッタリだ。さて次は少々、時間を食いそうな小説かな。ただいま併読中四冊。



10/4

土日の二日間、東日本家族応援プロジェクト十年目、多賀城プログラムのネット開催だった。zoomでいろんな話を聞いたり、話し合ったりした。私も恒例の「木陰の物語の物語」を一時間半、話した。だいぶ慣れてはきたが、zoom画面を見ていると、参加はこれだけかと思ってしまうがそうではない。



10/5

年金や保険手続きのため、戸籍謄本を取る。三人の子たちは結婚のため除籍。妻は死亡で除籍。残りは私一人。振り返ってみると全てのことが、あっという間の事だったように感じられてしまう。

元々、長くても百年くらいなのだから、何も起きず、永遠に続くような気分こそ、世迷言か。



10/6

私のホームページが出来た。各地で開催しているワークショップや、一般参加も出来る講演会、zoom プログラムの案内をしようと思う。

そこに、毎週コラムを書くことにした。題して「仕事場D・A・N 通信2020」。まずは第一回。よければご覧下さい。<https://t.co/FrZzyJNWum>

10/7

併読強化月間？に突入。この他にも三冊。混乱しないのか？と問う人もあろうが、読みたいのだから仕方がない。一冊を読み終わったら次の本に、など

と決めていたら、いつ読み始められるか分からない。

思い立ったが吉日、積ん読も読書！が信条だ。



18:04

4G

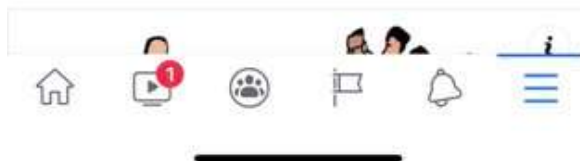
団遊
火曜日 11:31

母が8月に亡くなり、先日四十九日を終えた。それは悲しい出来事だったが、私にとっての一番の気がかりは、その影響を父が受け過ぎて塞ぎ込むことだった。

父をよく知る人からすれば「あの元気モノが、あり得ない」と言ってくさるだろうが、とても仲のいい夫婦だったので、何が起るかは分からない。

というわけで、父のホームページを作ることにした。父の現在進行中の仕事をまとめ、著作などで父に興味を持ってくれた人の次のアクションを提案し、全国で父のワークショップを主宰している人たちのネットワークを作る。これまで個々人が点で支えていたものを、線にし、神輿にし、塞ぎ込む暇もないほど、動きまくってもらおうという作戦である。さらにホームページ上で、ほぼ毎週更新のコラムも始めてもらうことになった。

息子流の、転ばぬ先の杖、完成です。



先日、私のホームページの告知をした。あれを作ってくれた長男の能書きが面白かったので、コピーを載せた。

10/8

朝から二件、新規相談。午後からはHさんとランチ。先日、次男と通りかかって入った店が美味しかったので、また来ようと思っていた。コロナの時期だが、楽しく食べて、その後、鴨川沿いのスタバに移動して時刻までおしゃべり。



10/9

面倒くさい気持ちを押し殺して手続を三つ。ひとつはガン保険の請求。そして家族対応型に入っていたのを自分だけにして、受取人も変更。

もう一つは妻の年金未支給分の請求手続き。市役所から通知が来ていたので、大津年金事務所に予約し、窓口で指示を受けながら完了。大分やったがまだまだある。

10/10

伊丹空港に来てみたら、予想外に欠航便の表示が多い。台風はやり過ごせたと考えていたのでドキッ！今から札幌に行って明日、WS。明日の夜には帰宅しているのだから慌ただしい。ずっと工事中だった空港ビルが完成していた。半年もこなかったのだから当然か。位置関係、一から覚え直したな。



10/11

久々の札幌WS。初めての方も五人参加。二十年以上になるが、今回、私事に引き寄せた家族話が止まらない。

昨日着いた札幌駅前では、山本太郎氏が街頭演説をしていた。国を憂い、熱く理想を語る若者を応援しなくては。



思いがけない記憶との遭遇。札幌からの帰路、空港で20年来の習慣で、六花亭のバターサンドをお土産に買いかけ、おっと、買って帰っても楽しみに待ってる人はいない。自分で全部食べなければならなかったけど手が止まった。以前は「楽しみに毎日一つ食べるねん！」と言ってくれていた。こういうことが寂しい。



10/13

先日購入したこれを観ようとケースから取り出そうとして、ディスクを割ってしまった。初めての事だが、取り出し方が乱暴だったようで当方のミスだ。

だめなら仕方がないけれど、と状況を正確に書いて河出書房新社に交換してくれないかと DISK を送って打診しておいたら、届けてくれた。嬉しい、さあ観よう。



10/14

ホームページ「士郎さん.com」に毎週、800 字ほどのコラム「仕事場 DAN 通信 2020」を掲載し始めた。月に一度くらいのぞいてもらって、4 編ほど読んでもらえるのが、手間や時間のバランスが良いかと思う。まだ二回目です。しばらくしたらどうぞ。



10/15

キッチン周りを整理していたら、こんな缶が出てきた。ハーブティーとかの類の香りだ。しかし亡妻が

途中まで飲んで忘れたのか、賞味期限切れがあまりにも古い。捨てかけてなんだか悪い気がした。調べてみると、飲むには適さないが煮出してお風呂に入れるとハーブバスになるとか。やってみた。「どうだった？」と聞かれたら、やってみただけだけど。



10/17

10 月になって先週は北海道 WS、今週は九州 WS と日常が戻りつつある。コロナは世界中で未だすっきりしないが、そんな下で生きることになるのだろう。できる用心をしつつ、怖気付いてしまわないよう頑張ろう。新幹線車中はいつものように読書と PC 作業。元気に一人でウロウロするのが好きなのだ。



10/18

福岡県八女にある H 病院を会場に家族理解ワークショップ。コロナ禍であり、慎重に少人数で開催。地域で働く人たちが、この研修で相互交流が盛んになるといいと狙ったワーク実施中。働くこと、暮らすこと、学ぶことが重層的に蓄積されていくことを願

っての定番プログラム。



10/19

出張を終えた週明け。予定がないので、仕事場道中のカフェで、HP のコラム、木陰の物語新作づくりに励もうと外を見ると雨模様。なんだこの寒さ。出鼻を挫かれ、録画してあったドキュメンタリー「見た目と見る目」を観る。このテーマは院ゼミで話題になった事だ。ここで使われる「生き辛さ」には共感。



10/21

根拠のある話ではないが、家の排水のことが気になっていた。家を建ててから三十年以上、排水管の事など考えたことがなかった。チラシで見た高压洗浄の単語に惹かれ、ネット検索の結果、別の業者に依頼してみた。二時間半、二世帯住宅なので倍の手間賃で完了。綺麗になった気がする。

10/22

来年1月からスタート予定のプログラムについて、世話人と zoom. 雑誌告知記事の取材を受ける。私以外は関東の女性三人。「家族の構造論」を一般の子育て渦中の父母向けに、6回隔週の継続講座として企画されている。正解を知りたがる人々に、家族理解の基礎トレーニングがどこまで可能かの挑戦だ。

10/23

後から参入してきて、どんどん追い抜いていく一冊

が「アンダードッグス」。他にも村松友視の实在編集者モノがブックオフで初見だったので新規参入。その結果今、6冊が並読中。加えて、kindle では、コミックス、谷口ジロー作「神々の山嶺」、他に半ばまでの時代短編小説2冊と大賑わい。



10/24

BS の筒美京平追悼番組を見ていたら、いしだあゆみさんが出てきた。高校時代、大好きで下敷きの中にプロマイドを隠し持っていた。57年前のアイドルが、美しい現役で登場。まだまだ頑張らなくちゃと思った次第です。



10/25



整理をしていて書棚の古い本に目がとまった。1

982年刊行の記憶に残る一冊だ。身近な死を経験したことで、再読し始めた。昭和52年、男性の平均寿命は72.7歳だったとある。私が三十歳の時、日本人の平均寿命は、今の私の歳だったのだ。短期間に大きく延びた寿命。考えるべき事が多くて当然か。

10/27

1週間、何も予定がないという、これまで考えられなかった時を過ごした。片付けをしたり、予定の先取りをして準備したり、新たな漫画作りをしたりした。しかし、やはり人に会わなければだめだと思った。同時に、現役ではなくなりつつあるなあとも。だから改めて、気楽な役目で参入だ。



録画してあった番組を見ていたら、急に思いついた。登場した先鋒書店は、南京の大きな本屋らしい。田舎にも店を出していて、とても魅力的だ。来年、上海の出版社から出る予定の「木陰の物語」が、ひょっとするとこの書店にも並ぶかもしれない。そんな事になったらとても嬉しい。



10/29

買い置いてあったコロナブックス「谷口ジロー」を読んで「神々の山嶺」に手を出したのだが、全五巻、1500ページ余りを kindle で読んで、寒さと感動に震えた。

「その人が死んだ時、一体何の途上であったのか、多分そのことが重要なのだと思います」、しみる言葉だ。



10/29

帰宅すると Amazon から届いていた。書店で見当たらなかったのをポチッておいた。風呂で読み始めたら、グングン。今の私は小説よりノンフィクションの時期なのだな。面白い！三浦英之さんの本には、「五色の虹」でハルビンに引き寄せられた。そして東北被災地での私の10年目の活動はこれが重なる。



10/31

久々だったのに重なった来客三名。昔馴染みの心理職後輩二人は夕刻から予定通り。差し入れの弁当を楽しみながら延々と。その前に、突然の来訪は亡妻の姉さん。明日からはまた、連日、いろんな人と会う。

自宅周りの落ち葉を掃いていたら、こんな花をつけていることに気づく。我が家の木を知らないなあ。

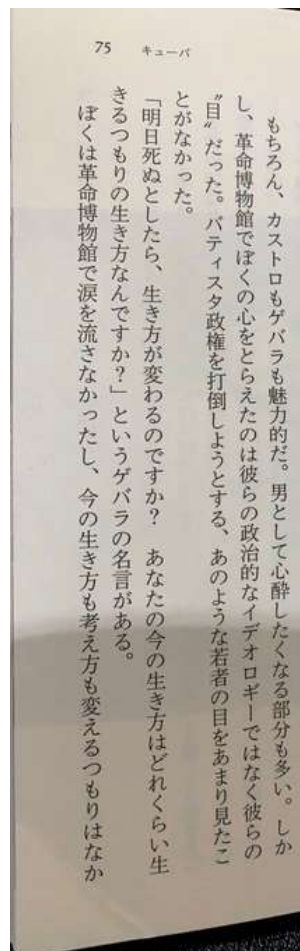


ショーン・コネリー氏が亡くなった。90歳だった。そうか、高校2年の梅田の映画館でゼロゼロセブンって口走っていた記憶。イアン・フレミングのポケミスも読んだりしていた。半世紀近く前、16歳の時に知ったんだものなあ。



11/01

二件の興味深い家族面接を見た後、山科駅前の大好きなカレー屋で夕食。スタバに回って読書。これ併読のつもりがどんどん追い抜き一位に。只今脱落本は一冊。新規参入はこの二冊。意外なことに芸人の旅日誌がゲバラの言葉を届けてくれる。谷口ジローは鳥取出身のわが御近所さんの小中高同級生だとか。びっくり！



10/02

毎週連載 800 字程度コラムが順調にひと月、5回目になりました。妻が亡くなってスタートした HP の企画なので、その影響が出ていますね。私の喪の途上の作業なののでしょうか。一年は続けたいと思っています。

11/03



昨日、雑誌のインタビュー取材を受けた。そこはまあ、いつもの私のような話をしたのだが。手土産にいただいた和菓子。堺名産と書いてあるけし餅。

これが美味しいのなんのって。十個入りを一人でもう6個も食べてしまった。ネットで調べたらそこそこの値段だが、納得。これは誰かに食べさせたい。

11/04

今日はストレッチに行った後、いつものカフェで連載コラムの書き溜めと、木陰の物語次回以降のプランをアレコレ。その時、昨日の zoom フィールドワーク研究会での話題がヒントになって広がってゆくことがある。やっぱりいろんな人に会って、話を聞く事は不可欠だな。

11/05

ふと仕事場デスク後ろの棚を見た。「ルーヴルの猫」、読んだかなあ。パラパラ読み始めたら面白い。ええどうなるのと思って気がついた。下巻があるんだ。そこで Amazon ポチ。隣の「さよならアメリカ」は読んだ。エッこの作家の他の物って気付かなかった。デザイナー渋谷直人の休日、これは kindle だ。



11/06

就職して、結婚するまでの一年ほど福知山でアパート暮らしをした。それ以来の一人暮らしの日常。これまで駆使しなかった家事能力があれこれ動く。今日は炬燵、絨毯付近の大掃除。ベランダに布団を干しながら見上げると、晩秋の空。叩くと埃がワンワン。ひどいなあ、戻すのはよそう。



11/07

今日、明日の二日間、東日本家族応援プロジェクト in 宮古を zoom で開催中。今日の K さんの現地レポートは zoom で出来ることのモデルになるだろう豊かなものだった。毎年出かけていたのとは異なったものが受け取れた。明日午前には私が漫画トークをする。



11/09

このところバンドデシネのマイブーム再燃で次々、新しいものが届く。下巻が届いて読み終えた「ルーヴルの猫」。こんな絵も物語も、到底自分には描けない。BS 浦沢直樹の「漫勉」を見ても、漫画家はみんな偉いなあと思う。翻訳物の BD の世界の豊かさは、購入という協力をして、楽しませて貰うだけだ。



11/10

大阪南港で開催中のこれに行ってきた。昨年末だったか、雑誌が数冊発行されたのを見て、楽しみにしていたがコロナで開催もあやふやになった気がしていた。しかし、この展覧会は知っていて予想していたよりずっと刺激的だった。バンクシーは直球だ。面白い！こういう風刺なら描いてみたい。



11/11

週末は妻の百ヶ日に息子たち一家が来る。その準備でホットカーペットを出したり、掃除したり。

ブランチは賞味期限ギリの卵などを使い切ったためサラダ、だし巻き、野菜炒め、ぶどうパン、柿とバナナのスムージー。腹いっぱいでも今夜の草津家族勉強会のパワポ作成。なんでもやるよねー。



11/12

定期購読する雑誌を見ていたら、誠品書店が東京日本橋にオープンと紹介されている。台北を訪れると必ずのぞいていた本屋。文化全般に手足を伸ばしたような店だ。だからどうと言うのでもないが、なんだか嬉しい。東京に行ったら足を運んでみよう。



11/13

こんなランチを済ませて紅葉散策に、京都滞在中の平木さんとぶらぶら。私の選択は東福寺から泉

涌寺へ。後者は何十年かぶりの訪問。どちらも見頃の紅葉がみごと！だが例によって私は喋ってばかり。まあ暖かいいい秋の日だった。



11/14

今日で百か日。竹中君から立派な白菜をいただいた。白菜に関心を注いだのなんて、故宮博物館の翠玉白菜以来だ。重い重い！



11/15

お気付きの方、少ないようなので。私、「だんしろ」と申しますが、濁点を二文字ずらすと、なんと、「たんじろ」になります。



(つづく)